

研究プロジェクト5 「宣教師関係資料研究」

大江 満

宣教師関係資料は、戦前まで立教学院の経営母体であったアメリカ聖公会の伝道機関誌『スピリット・オブ・ミッションズ』(Spirit of Missions/1836～1939)とその後継誌『フォース』(Forth/1940～1959)が基幹資料となる。立教学院史資料センターでは二〇〇八年度から二〇一四年度にかけて、最初のアメリカ聖公会遣日宣教師が来日した一八五九(安政六)年から後継誌終刊年にあたる一九五九(昭和三四)年までの一世紀を対象とした『立教関係記事集成』を、立教学院一五〇年史資料集として、五巻と別巻(最終巻)にわたり、口絵、まえがき、凡例、用語表記、解題、英文表題、和訳目次、英和記事表題、人名索引を付して、関係記事原文とその対訳を並置させる構成内容で刊行した。

また当センターは、日本聖公会管区事務所所蔵のアメリカ聖公会遣日宣教師書簡群(通称ジャパン・レコーズ、Japan Records)のマイクロフィルムの複写版を、日本聖公会管区事務所と共有できることになり、この膨大な

書簡群の目録作業も二〇一五年度に完了した。このなかから、立教学院幹部関係、池袋キャンパス移転関係、大学令による大学設立関係などの重要資料を選定して、翻訳(下訳)作業をおこなった。

さらに、一九〇〇年から一九四四年まで発行された日本聖公会機関誌『基督教週報』(一九四三年四月一〇日の八三巻七号より『基督教教』と改題され、一九四四年二月一〇日の八四巻一号が終刊)のデジタル化と詳細な記事目録が完成し、資料センターのHP上で閲覧できるようになっている。

二〇一三年五月に立教創立者ウィリアムズ主教遺品資料(手稿資料と蔵書)が、劣化防止のため日本聖公会京都教区から移管された。それらは、手稿資料(直筆ノートなど)、蔵書類(図書)、ウィリアムズ宛書簡などに分類されるが、前者二つを合わせて七七五点、受信書簡は約五〇〇通余りにおよぶ。特に選定された貴重な手稿資料は、複数年計画で脱酸化処理など必要な修復保全を施す措置を講じ、修復を終えた資料は中性紙箱に収納されている。五〇〇点以上ある蔵書類(図書)は一冊ごとに寸法を計測した中性紙箱に収納し(二〇一七年度、今後これらのオリジナル図書は、手稿資料(中性紙箱と中性紙袋に分別して収納)ともに非公開とし、立教大学新座図書館・新座保存書庫の貴重書庫に永久保存されるた

め、二〇一九年七月末に移管された。現在、当資料センターでは、研究者閲覧用のために（公開時期未定）、デジタル撮影（スキャンング）をほぼ完了し、それらのPDF化とその打ち出し紙資料を整備した。これらのデータは今後、立教大学図書館の検索システムから閲覧が可能になる予定である。

二〇一三年一月一八日～二三日に池袋キャンパスで、ウイリアムズ移管資料から選抜した二八点の画像（三浦健司氏撮影）を、同年一月二五日～二九日には新座キャンパスで展示公開し、そのパンフレットを作成した。

二〇一六年度は、選抜したウイリアムズ直筆資料や署名・押印のある蔵書群などの主要資料一二六点を収載する図録『C・M・ウイリアムズ図録』（三浦健司氏撮影）を、巻頭にまえがき、解説を付し、巻末には、掲載した主要資料以外も含めた全てのウイリアムズ主教移管資料の目録を付して、刊行した。

二〇一八年度は、オーストラリアから日本聖公会南東京教区（現・横浜教区）に派遣された戦後初の宣教師フランク・ウイリアム・コールドレイクとその御夫人であるメイダ・ステルマ・コールドレイクの資料がご子息ウイリアム・コールドレイク氏から当センターに寄贈され、その収蔵資料を掲載したパンフレットがご子息の編

著により二〇一九年二月に作成された。

二〇一九年二月九日に逝去された大濱徹也氏（筑波大 学名誉教授）のキリスト教関係史資料・蔵書が寄贈されることになり、同年五月から一二月にかけて六回にわたり、筑波と札幌から合計約二〇〇箱分の貴重な蔵書類が移送された。そのなかには外国人宣教師関係資料も含まれている。二〇一九年度から宮川英一氏と太田久元氏が資料整理に携わっている。

二〇一九年度には、立教大学学長を務めた元田作之進関係資料が資料センターに寄贈された。元田作之進の長男稔氏から充隆氏へと移管された資料群である。そのなかには滞米中英文日記を含む自筆の日誌や手帳など、貴重な資料が数多く含まれている。

元田作之進の二男茂氏から茂氏の長男の進氏が保管する資料もすでに資料センターが一時預かりデジタル撮影をおこなって返却してあるが、今後資料センターに作之進関係オリジナル資料が寄贈される予定になっている。